

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター高丘担当圏域レベル）
開催報告書

1 開催日時	令和 6 年 12月 12日 （木） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	北部協働センター 第2・3講座室
3 参加者	25名 協議体委員15名、関係機関10名（高齢者福祉課1名、長寿支援課2名、包括高丘2名、市社協地域支援課1名、市社協浜松地区センター4名）
4 協議の内容	認知症に優しい街づくりについて
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1) 第1回協議体会議の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none">・協議体広報誌「にも通信」発行までの流れ・「にも通信」について地域の反響について、その他意見・包括高丘による認知症ミニ講座 <p>上記についてパワーポイントを用いて振り返りを行った。</p> <p>(2) 小中学校への認知症講座を行った報告（包括高丘）</p> <p>パワーポイントの資料を用いて圏域内の小中学校での講座を実施した状況を報告した。</p> <p>(3) オレンジ体操について（体験者の感想と体験）</p> <ul style="list-style-type: none">・幸シニアクラブ会長の鈴木莞爾委員よりオレンジ体操を体験してみた感想とシニアクラブの活動状況を報告。・聖隷リハビリプラザIN高丘から看護師と理学療法士を招き、オレンジ体操を委員が実際に体験した。 <p>(4) 「浜松市認知症高齢者等に優しいお店・事業所」認証事業について</p> <p>高齢者福祉課よりパワーポイント資料を用いて事業説明。</p> <p>(3) グループワーク</p> <p>4. 全体共有</p> <p>各グループで出た意見を全体で共有した。</p> <p>「認知症に優しいお店・事業所認証事業について」</p> <ul style="list-style-type: none">・認証事業の意味合いはいつくかあると思われる、①何かしらの機能・働きを仕組みとして担ってもらうこと ②認知症の理解を広めること、認知症の疑いのある人も	

含めて排除をしないことなど、何かしらの働きをしてもらうことの必要性を感じるもののハードルも高くなってしまっているのではと危惧している。

- ・ 認証店であるから、徘徊者を滞在させていくとか具体的な役割を担うことを納得されて認証店という形が良いのでは、受ける側が何をするのか明確にするのが良いのでは。
- ・ 初期の認知症など、少し現金支払いが上手くいかないであるとか、優しい対応を心掛けるといった比較的ハードルが低い形での事業所が多いのでは。
- ・ ある程度の具体的な機能を果たしてもらう事業所は別の形でのネットワークを構築する方が機能するのでは。
- ・ 認証店の役割は、認知症に特化するものというよりも、高齢者に優しい街づくりにつながるもの、本圏域のテーマである「認知症にも優しい街づくり」に通じる。
- ・ 認知症高齢者について、店員が研修を受けていれば対応が変わってくるだろう。
- ・ 認証店に登録した店舗さんにきっかけや背景の話を聞いてみたい。
- ・ コンビニはたくさんあり夜もやっているが従業員が少ない。一人の人を見続けるのは難しいかも。また、オーナー以外バイトの場合、認サポ講座はオーナーだけ受ける？
- ・ 認証店が広まり、認知症の人がいつでも何かあれば駆け込める場所になればいいと思う。
- ・ 圏域内にはお店が少ない。床屋とかは声掛けできるかも
- ・ 認知症の人は外出のハードルが高い。そこに行くまでの支援をすることも必要では。
- ・ 認知症の人のことを考えると、銀行よりも日用品を買いに行くことのほうが多い。スーパーやコンビニが認証店になってくれたらありがたい。
- ・ お昼近くになるとコンビニを使う高齢者も多い。
- ・ 認証店になるメリット⇒ステッカーをもらえる。認証店の一覧に掲載される

< 認証店の候補となる事業所・店舗 >

- ・ コメダコーヒー（喫茶店）滞在型の店舗は効果があるのでは
- ・ 夜の時間に徘徊することも想定されるため、夜間に営業している店舗
- ・ スーパー、お弁当店、携帯ショップ、自動車（ディーラー・修理店）、理・美容室
クリニック
- ・ 自治会は認証店になり得るのか？
- ・ 子ども 110 番になっている所は協力を得られるのではないか
- ・ 協議体圏域で 認証するような仕組みもあっても良い
- ・ 人に認証事業を当てはめてみるのも良いのでは

「認知症サポーター養成講座について」

- ・ 子どものころから理解を深めるのは良いこと、声掛け訓練や日常にもつながっていることを感じる、継続的に実施できると良い
- ・ 学校の事業として取り組んでもらったらどうか、交通安全対策については非常に熱心であるため、セットで展開するのはどうか。

「オレンジ体操について」

- ・ ラジオ体操の後オレンジ体操を盛り込んだらどうか、子どものころから馴染んでいくのが良い
- ・ サロンなどでロコトレ体操と合わせて取り組む
- ・ 日常生活に連動した体操を創作したらどうか、わざわざ体操よりも取り組み易いのでは…おそうじ体操、家事体操、草取り体操 など
- ・ サロンで他の体操+αでもやってもよさそう。
- ・ 体操をやりたい部分で選べるのはやりやすいと思う。

「その他の話題（オレンジシール・メール、認サポ講座等）」

- ・ もっと普及が必要では
- ・ シールを嫌う人もいる。

- ・ オレンジシールを貼っている人を地域で見たことがない
⇒ オレンジシールはどのくらい普及されているのか調べてほしい
(高齢者福祉課確認中)
- ・ オレンジシールを付けることができた例などはないか
⇒ 光の反射板だと言えればつける人もいる

5. 事務連絡

6. 閉会 副会長

**5 今後の見通し・
必要な対応**

「にも通信第2号」の発行も継続しつつ、認知症予防について情報提供を行いながら、地域の活動に参加し実情調査を進めていく。

「浜松市認知症高齢者等に優しいお店・事業所」認証事業について、認証店の増加につながる活動について協議体内で検討を進めていく。